

85th Interim Business Report



第85期 中間報告書

(2019年4月1日～2019年9月30日)

Passion for the Next Innovation

～次なる革新への熱い思い～



ご挨拶

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。ご挨拶申し上げます。

第85期第2四半期連結累計期間の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

2019年度は、3カ年計画で取り組んできた「New DMW 中期経営計画2019」の最終年度となります。経営数値目標として掲げた4項目のうち、これまでに営業利益14億円、営業利益率7%、ROE6%については達成することができました。今年度は、国内外の大型案件の受注、海水淡水化ビジネスの確立に全社一丸となって取り組み、受注高220億円の達成を目指します。

株主の皆様のご期待に沿うべく努力をいたす所存でございますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 土屋 忠博

当第2四半期連結累計期間における受注はどのような状況でしたか。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国においては個人消費の回復が継続したものの、設備投資に弱さが見られ、中国においては米中貿易摩擦を背景とする景気の鈍化が鮮明となったほか、英国のEU離脱問題や中東情勢の不安定化などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いています。わが国経済は、緩やかな回復基調で推移したものの、海外経済減速の影響による輸出や生産の弱さも継続しており、足元では製造業を中心に景気の停滞感が見られました。

このような中で、当第2四半期連結累計期間における受注額は、大型案件を受注した官需部門及び海外部門が好調であったことなどから、前年同期に対し143.1%の134億6百万円と大幅に増加しました。

業績はいかがでしたか。

売上高につきましては、官需部門と海外部門が前年同期に比べて増加したことから、前年同期に対し

109.3%の61億89百万円となりました。一方、利益につきましては、前年同期に比べて利益率の良い案件が少なかったことなどから、営業損失は5億47百万円（前年同期営業損失1億54百万円）、経常損失は4億65百万円（前年同期経常損失84百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億38百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失77百万円）となりました。

なお、当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節的変動があります。

通期の業績については、売上高196億40百万円、営業利益14億70百万円、経常利益16億10百万円、親会社株主に帰属する当期純利益11億10百万円を見込んでいます。

また、今年度の中間配当につきましては、1株当たり普通配当40円とさせていただきます。なお、期末配当予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績及び通期連結業績予想等を勘案し、当初予定の40円から2円50銭増配の1株当たり42円50銭に修正いたしました。

今後の取り組みについてはどのようなものを考えていますか。

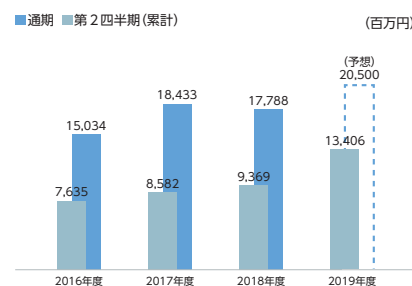
官需営業においては中長期受注戦略のもと、将来のストックビジネスに貢献する大型案件の受注に継続して注力していきます。また、既設機場の長寿命化計画及び台風の大型化やゲリラ豪雨による浸水対策など、顧客のニーズを的確に捉えた提案営業に一層注力していきます。国内民需営業については、電力分野における定期点検の周期延長に対応可能な社内体制の整備・提案内容の充実を図り、顧客との信頼関係のさらなる強化に取り組んでいきます。海外営業においては、海外拠点を有効活用し、GAS&OIL市場での大型案件受注、ストックビジネスの掘り起こしに注力していきます。海水淡水化ビジネスの拡大に向けては、国内外向けの受注実績を活かし、インド・中東・アフリカ等向けの営業活動を強化していきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

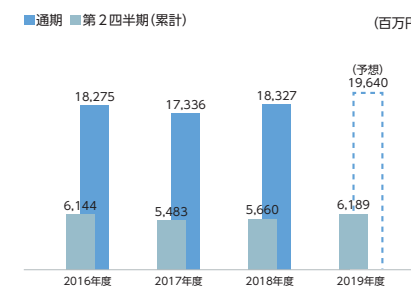
2019年12月

連結財務ハイライト

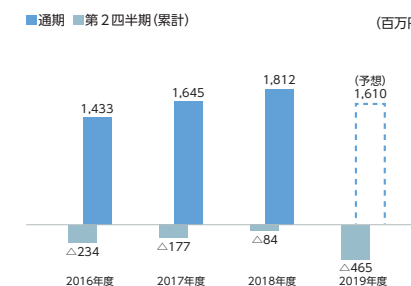
● 受注高



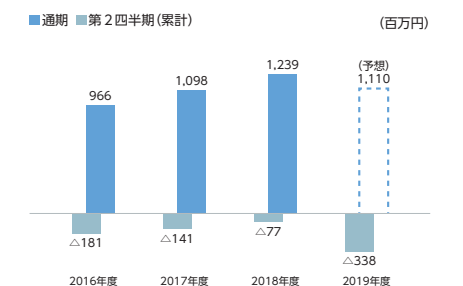
● 売上高



● 経常利益



● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



国内

東京都下水道局向け 雨水ポンプ設備工事

近年、局地的大雨や都市化の進展などにより、下水道への雨水流入量が増加傾向にあります。地域や場所によっては、雨水排除能力が不足し、市街地が浸水するなどの被害が多く発生しています。

東京都下水道局では、「局地的大雨などから都市を守り、安全・安心で快適な生活を支えるための浸水対策」として下水道施設の整備などの取り組みを推進しています。

そのような中、当社は東京都下水道局より、みやぎ水再生センター向け4台、千住関屋ポンプ所向け4台の大

型立軸斜流ポンプ（先行待機（全速）形電動機直結立軸斜流ポンプ）設備を受注しました。

千住関屋のポンプ機場向けポンプ設備工事は、『高揚程・大口径ポンプ技術の開発』として東京都下水道局と共同研究を行い、その研究目標を達成したポンプを納入する初の工事となります。納入するポンプは、高揚程・大口径の無注水先行待機ポンプとして国内最大級のもので、工事完了後には現地に据え付けた実機で共同研究の事後評価を行います。

千住関屋ポンプ所
ポンプ設備工事

2019年7月、千住関屋ポンプ所向け大型立軸斜流ポンプ4台（口径1,800mm／揚程43.5m/出力4,430kW）を受注しました。

同ポンプ所は、東京都足立区千住、千住大川町、千住仲町、日ノ出町等に流入する雨水を吸揚し、隅田川へ放流する設備です。

みやぎ水再生センター
雨水ポンプ棟ポンプ設備工事

2019年6月、みやぎ水再生センター向け大型立軸斜流ポンプ4台（口径1,500mm／揚程21m/出力1,270kW）を受注しました。

同センターは、東京都北区の大部分と板橋・豊島・足立区の一部を処理区域としています。そのセンター内に新しく建設された雨水ポンプ棟に雨水ポンプ4台を設置するものです。

海外

タイPTTLNG社Nong Fab LNG受入基地向け気化器海水ポンプ

タイPTTLNG社
Nong Fab LNG受入基地

2019年7月、台湾CTCI / イタリアSaipem JV 社より、タイPTTLNG社 Nong Fab (ノンファブ)LNG 受入基地向け気化器海水ポンプ4台を受注しました。

同基地は、バンコクの南東に位置しており、PTTLNG社にとってタイ国内2カ所目となる新たに建設されるLNG受入基地（750万トン／年）となります。

同ポンプは、LNGを気化する際に熱媒として使用される海水を気化器へ送水するために使用されます。材料には、耐食性に優れたスーパー二相ステンレス材を採用しています。

当社は過去、同社向けに同様の気化器海水ポンプを納入しており、長期間の安定した運転実績による信頼性を評価されて今回の受注となりました。

今後も、ポンプのさらなる品質向上、納入後のサポートなどを通じて顧客満足度の向上に取り組んでいきます。



●過去に同社向けに納入した気化器海水ポンプ

台湾電力公司 大潭複合火力発電所向け大型循環水ポンプ

2019年7月、丸紅株式会社より、台湾電力公司（Taiwan Power Company）の大潭（ダータン）複合火力発電所8号機・9号機向け大型循環水ポンプ4台（口径2,400mm）を受注しました。

同発電所は、台湾北西部の桃園市に位置しており、今回増設される8号機・9号機の総出力は、2,000MW超となります。

今回の受注は、当社の丸紅株式会社向けの実績と高い技術力・信頼性が評価されたものです。

本案件は、当社にとって初の台湾電力公司向けの受注となります。台湾では今後も大型ガス焚き複合火力発電所建設が計画されており、今回の受注を足掛かりとして、今後の台湾での受注活動に邁進していきます。

台湾電力公司
大潭複合火力発電所

海外向け大型エネルギー回収装置 DeROs®の受注

中東向け省エネ型海水淡水化システム用 エネルギー回収装置&ポンプ一式をパッケージ受注

当社は、この度、株式会社日立製作所より同社が開発した低圧多段高収率海水淡水化システムに使用されるエネルギー回収装置として新商品**DeROs®**と、ポンプ類一式／制御盤等をパッケージで受注しました。

同社の低圧多段高収率海水淡水化システムは、高塩濃度の海域にあるサウジアラビアの海水淡水化プラント（造水量10,000m³/日）で使用されます。

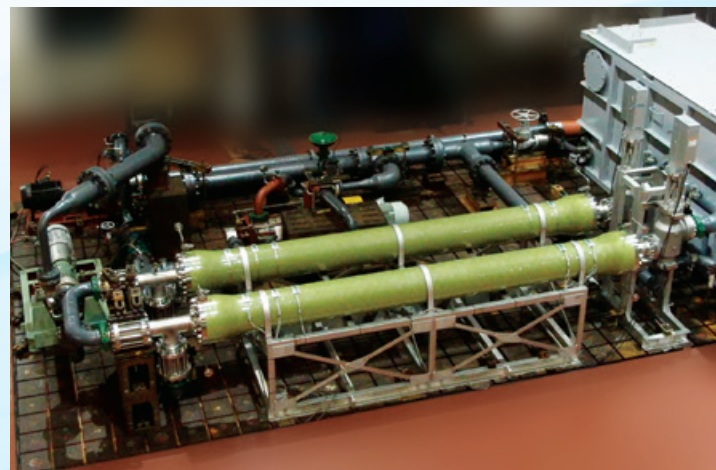
同システムでは、RO膜が濃縮海水側と低圧透過水側の多段に配置されるため、2種類のエネルギー回収装置が使用されます。これらのエネルギー回収装置に当社の**DeROs®**が採用されました。同装置は、世界最高水準のエネルギー回収効率98%超を実現した最新鋭のシステムであり、当社が国内メーカーとして初めて商品化したものです。また、同システムで使用されるRO膜注水用高圧ポンプは、性能の最適化（効率従来比3%超UP）と構造解析によるコンパクト設計を図りました。

エネルギー回収装置と各ポンプを同一メーカーが

製造することにより、最適な制御システムの提供が可能な点を高く評価され、パッケージでの受注に至りました。

今回の海外向け海水淡水化システムへの納入実績を皮切りに、中東地域をはじめ、インド・アフリカ地域などの水問題の解決に貢献していく所存です。

注：DeROs®はエネルギー回収装置の商品名です。



富士山南東消防本部三島消防署との合同総合防災訓練

三島事業所では、毎年、南海トラフ地震を想定した総合防災訓練を実施しています。

本年9月に実施した訓練では、初期避難や救出・応急・消火等の各隊に分かれて行う訓練に加えて、富士山南東消防本部三島消防署（以下、三島消防署）にご協力いただき、三島事業所本館4階と屋上の2カ所からの高所避難訓練を実施しました。三島消防署から「はしご車（先端屈折式）」も出動し、本番さながらに進められました。

今後も継続して訓練を行い、非常時に迅速な行動をとれるよう、日頃から防災意識・知識の向上に努めていきます。



●はしご車を使用した高所避難訓練の様子

三島事業所 花壇整備

三島事業所では、環境美化活動の一環として花壇整備を実施しています。

この度、整備を実施した花壇は、三島事業所本館エントランスに位置するもので、静岡県が実施する障害者雇用を支援する訓練制度を活用して、当社で働く障害者の方々が整備したものです。また、同花壇は三島市が推進する*「ガーデンシティみしま」事業の一環として行われる花壇コンクールにおいて「新人賞」を受賞しました。

今後も構内通路等の花壇整備を進め、環境美化への取り組みを継続していきます。



●今回整備した花壇

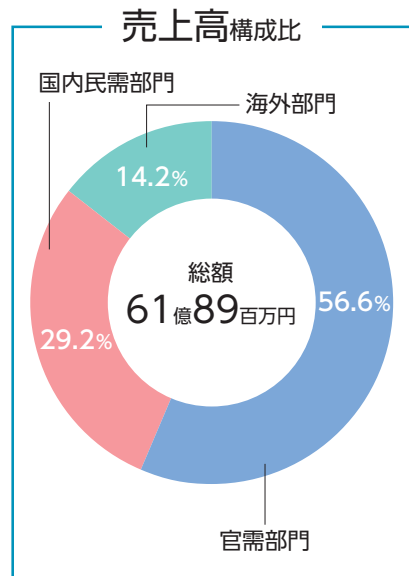
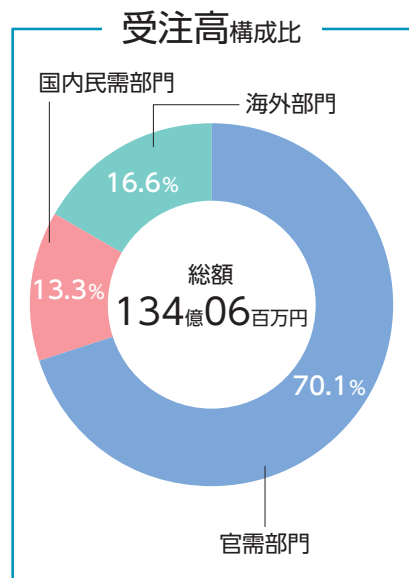


●花壇コンクール表彰状

*「ガーデンシティみしま」事業
水と緑、文化や歴史など、三島市の素晴らしい財産に新たに「花」を加えた事業を展開し、市民や観光客が癒される「美しく品格のあるまち」の創造等を推進する事業



部門別営業の状況 (2019年度第2四半期連結累計期間)



官需部門

受注高 93億98百万円
(前年同期比140.4%)

売上高 35億05百万円
(前年同期比123.9%)



● 上水道施設向けポンプ

国内民需部門

受注高 17億76百万円
(前年同期比113.0%)

売上高 18億07百万円
(前年同期比87.3%)



● 石油化学プラント向け送風機

海外部門

受注高 22億31百万円
(前年同期比202.4%)

売上高 8億76百万円
(前年同期比115.1%)



● 石油パイプライン向けポンプ



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 2019年9月30日現在	前期末 2019年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	16,170	20,418
固定資産	6,513	6,333
有形固定資産	3,581	3,643
無形固定資産	149	143
投資その他の資産	2,783	2,546
資産合計	22,684	26,751
(負債の部)		
流動負債	4,467	7,950
固定負債	176	175
負債合計	4,643	8,126
(純資産の部)		
株主資本	17,528	18,098
資本金	810	810
資本剰余金	111	111
利益剰余金	17,445	17,956
自己株式	△837	△779
その他の包括利益累計額	511	526
純資産合計	18,040	18,625
負債純資産合計	22,684	26,751

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

電業社機械製作所

検索

詳細な情報につきましてはホームページをご覧ください。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
売上高	6,189	5,660
売上原価	5,326	4,407
売上総利益	863	1,253
販売費及び一般管理費	1,410	1,407
営業損失(△)	△547	△154
営業外収益	102	92
営業外費用	21	22
経常損失(△)	△465	△84
特別利益	—	23
税金等調整前四半期純損失(△)	△465	△61
法人税等	△127	16
四半期純損失(△)	△338	△77
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△338	△77

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,352	5,418
投資活動によるキャッシュ・フロー	△285	△185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△238	△346
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	820	4,885
現金及び現金同等物の期首残高	7,472	3,395
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,293	8,280

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

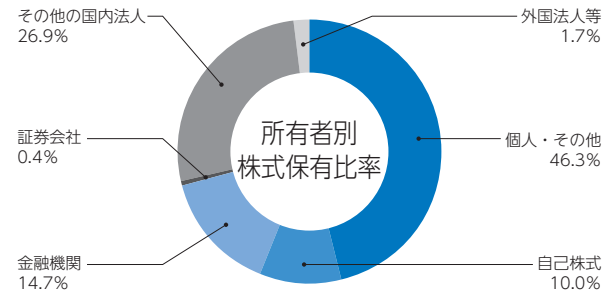


株式の状況 (2019年9月30日現在)

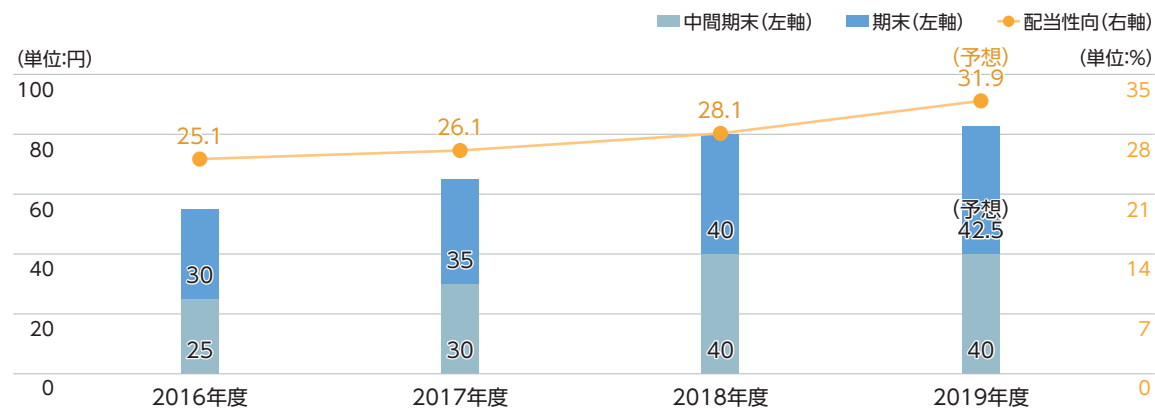
株式の状況

発行可能株式総数	19,107,600株
発行済株式の総数	4,776,900株
株主数	3,184名

株主構成



1株当たり配当金／配当性向



会社の概況 (2019年9月30日現在)

会社概要

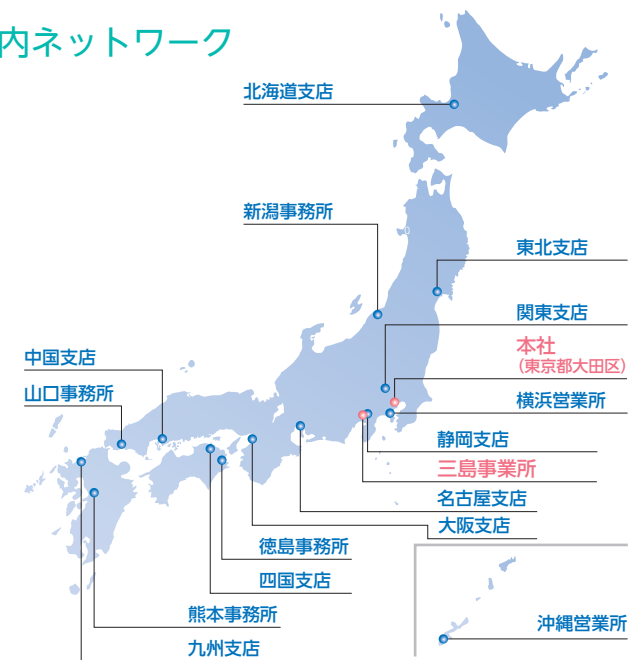
商号	株式会社 電業社機械製作所 (DMW CORPORATION)
所在地	東京都大田区大森北一丁目5番1号 〒143-8558 TEL 03 (3298) 5115
資本金	810,000千円
グループ従業員数	613名 (うち契約社員80名、パートタイマー37名)

取締役及び執行役員

代表取締役社長 最高執行役員社長	土屋 忠博
取締役 上席常務執行役員	彦坂 典男
取締役 常務執行役員	村林 秀晃
取締役 常務執行役員	稲垣 晃
社外取締役	上地 崇夫
社外取締役	杉井 守
取締役 (常勤監査等委員)	鯉沼 博行
社外取締役 (監査等委員)	住田 知正
社外取締役 (監査等委員)	多田 修
上席執行役員	浜田 耕一
執行役員	青山 匡志
執行役員	原 広志
執行役員	山岸 嗣宏

ネットワーク

国内ネットワーク



国内子会社

- ・電業社工事株式会社 (本社：静岡県三島市)
- ・株式会社エコアドバンス (本社：静岡県三島市)

海外ネットワーク

海外拠点

- ・アブダビ支店 (アラブ首長国連邦)
- ・シンガポール支店
- ・大連事務所 (中国)
- ・米国拠点 (ヒューストン IPS社)

海外子会社

- ・DMWインド社 (本社：ムンバイ 工場：プネ)

株主メモ

- ・事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- ・期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日
- ・中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日
- ・定時株主総会 毎年6月開催
- ・株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- ・上場証券取引所 東京証券取引所
- ・公告の方法 電子公告により行う
公告掲載ホームページ
<http://www.dmw.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(各種手続き先)

1. 株式に関する各種手続き(住所・氏名の変更、配当金振込口座の指定・変更、単元未満株式の買取請求等)につきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
2. 株券電子化に伴う証券会社等の口座への振替手続きがお済みでない株式(特別口座に記録された株式)に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 銀行取扱い期間終了後の未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

最新のIR情報につきましては、当社のホームページ「IR情報」をご参照ください。

当社ホームページ <http://www.dmw.co.jp/>



▲TOPページ

▲IRページ

 株式会社 電業社機械製作所

〒143-8558 東京都大田区大森北一丁目5番1号
TEL(03) 3298-5115(代表)



森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用しています。



環境に配慮した植物インキを使用しています。